

氏名	岡 谷 照 太
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 192 号
学位授与の日付	昭和41年 9 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学 位 論 文 題 目	胸腺摘出の免疫能に及ぼす影響に関する実験的研究 特にその血中抗体に及ぼす影響について
論 文 審 査 委 員	教授 砂 田 輝 武 教授 田 中 早 苗 教授 児 玉 俊 夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

生直後胸腺を摘出した動物の免疫能を、特にその血清学的因子に就てマウスを用いて実験し、次のような結果を得た。

1) 循環血液中のリンパ球数の変動について

リンパ球好中球比 (L/p比) の変動を生直後より経日的に追求し、対照群では生直後の 2 ～ 3 倍になるのに反し、胸摘群ではほとんど変化しないことをみた。

2) γ -グロブリン分劃値の変動について

γ -グロブリン分劃値を Paper-electrophoresis により検索したが、胸摘群と対照群との間には著変をみとめなかった。

3) 血清学的ショックに対する影響について百日咳ワクチンを附加した卵白アルブミンを用いて感作すると両群とも激しいショックに陥り、結局は死に至るが、ショックの発現より死に至る経過時間に有意の差をみとめた。

4) 腫瘍異種移植に対する影響について

ラットの吉田肉腫、弘前肉腫を用い、これを両群の腹腔内に接種すると、胸剔群は対照群に比し腫瘍細胞の検出可能期間が数日間延長していることをみとめた。

以上の結果より、生直後胸腺摘出の効果には血中抗体の役割も否定出来ないことをみとめた。

論文審査の結果の要旨

岡谷照太提出の「胸腺摘出の免疫能に及ぼす影響に関する実験的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

動物の胸腺を出生直後に摘出した際の免疫能抑制効果は従来主として細胞性抗体の面から強調されているが、著者は液体性因子に重点をおいてこの効果を検討した。Swiss 系及び C₅₇ 系マウスを用い出生後24時間以内に胸腺を摘出した群と摘出しない対照群とを比較すると、摘出群では著明な血中リンパ球増加の抑制が認められた。 γ -グロブリン分劃値を百日咳ワクチンを adjuvant として加えた卵白アルブミンで免疫したマウスについて Paper electrophoresis によって調べたが、両群の間に有意の差はなかった。これと同一抗原で行なったアナフィラクシー・ショックに対する影響では、摘出群は対照群に比し死に至る経過時間が著しく延長した。次にラットの吉田肉腫、弘前肉腫をマウス腹腔に異種移植すると、摘出群は対照群に比し腫瘍細胞の検出可能期間が数時間延長するのを認めた。以上の結果より胸腺摘出による免疫抑制効果には血中抗体の役割も否定できないと結論した。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。